

猪苗代における水稻の 減化学・無化学肥料栽培

福島県農業試験場 冷害試験地

平成14年度福島県農業試験場成績概要

分類コード 01-01-01137100

部門名 水稻—水稻—品種—施肥法—会津積雪

担当者 菅家文左衛門・矢島 豊

I 新技術の解説

1 要旨

猪苗代において、牛糞堆肥、鶏糞、ナタネ粕を組み合わせ、化学肥料の半減や無施用の条件で水稻を栽培した。慣行区対比95%以上の収量を得ることができ、品質も良好だった。

- (1) 品種: あきたこまち、中苗: 5月22移植、栽植密度: 22.2株/㎡
- (2) 有機物資材として、牛糞堆肥(N:0.4%)、鶏糞(N:3.2%)、ナタネ粕(N:5.3%)を用いた。
- (3) 施肥量等
区の構成と施肥量は、慣行区: 窒素(化学肥料)0.6+0.2kg/a、無化学肥料区: 牛糞堆肥(200kg/a)のみ、減化学肥料区: 窒素(化学肥料)基肥0.4kg/a、鶏糞区: 鶏糞24kg/a、ナタネ粕区: ナタネ粕10kg/aである。
牛糞堆肥は、慣行区以外に200kg/aを施用した。
- (4) 収量は、慣行区対比で、無化学肥料区(牛糞堆肥のみ)では80%と低かったが、他は、95%以上を確保した(図1)。
- (5) 収量は、穂数と正の関係がみられた(図2)。
- (6) 検査等級は、すべて1等級だった。

2 期待される効果

地域で容易に入手できる有機物資材を利用した水稻栽培技術を示したことで、地域の有機物資源を活用した循環型農業の推進に寄与する。

3 適用範囲

猪苗代町周辺

4 普及上の留意点

平成13年と14年に実施した結果である。有機物資材の施用効果は、資材の種類や土壌、栽培条件により異なる。

II 具体的データ等

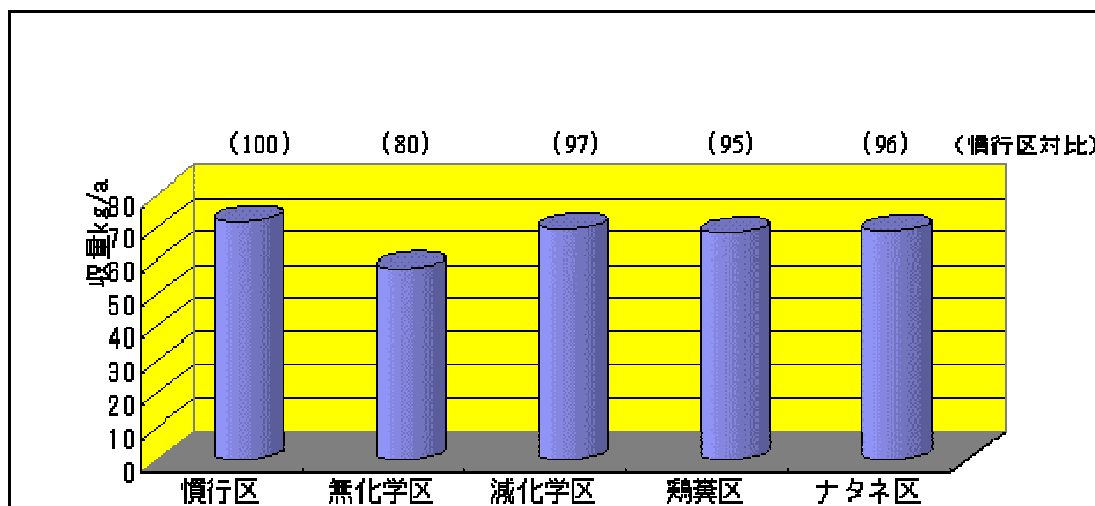


図1 収量 (平成13年、14年の平均精玄米重)

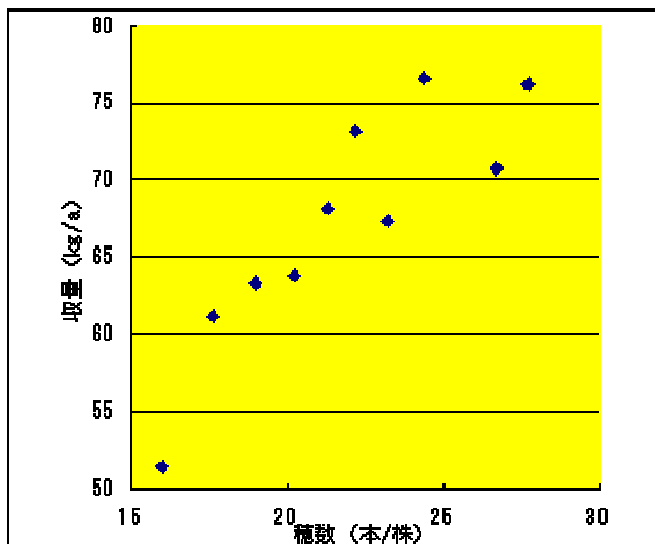


図2 収量と穂数の関係

Ⅲ その他

1 執筆者

菅家文左衛門・三浦吉則

2 主な参考文献・資料

なし